

講師プロフィール

しおのや かおり
●塩之谷 香 整形外科医

塩之谷整形外科病院 副院長

豊橋市出身。1985年金沢医科大学卒業、名古屋大学整形外科に入局。

江南昭和病院、名城病院、名古屋大学分院、名古屋大学病院などに勤務。1994年渡独中、進歩的なドイツ靴医学に感銘を受け、帰国後、歩行障害のある6歳の男の子にドイツ整形靴を処方し、笑顔で手を振って歩き出したことをきっかけに、1996年足と靴について専門的に診療する予約制の「靴外来」を開設。診断後、必要な患者に対して専門の靴店や義肢装具士と検討し、最適な靴選びやインソールの加工を行い、保存的治療に成果を上げている。また、手術的治療にも積極的に取り組んでいる。

1998年医学博士号取得。日本靴医学会、日本フットケア学会、評議員。著書に「足のトラブルは靴で治そう」(中央法規出版)「足のトラブル解消術」(NHK出版)、主なテレビ出演にNHK「あさイチ」「ためしてガッテン」「ゆうどきネットワーク」「名作ホスピタル」などがある。2015年第29回日本靴医学会学術集会大会長を務め「みんな集まれ！靴医学」をキャッチフレーズに多くの動員数を記録した。小児の足と靴についても造詣が深く、日本における靴医学の草分け的存在。



いとう えみこ
●伊藤 笑子 マスターシューアドバイザー

ウェルネス&シューズサロン・フラウプラッツ 代表

京都市出身。2015年新潟医療福祉大学大学院修士課程修了。

1992年よりドイツ・東京にてドイツ整形外科靴マイスターに師事し、靴医学を修得。日本の子ども靴の認識の低さ、品質を問題視し、1993年ヨーロッパから子ども靴を輸入し、カウンセリング販売を始める。1996年インターネット上に「子どもの足と靴の相談室」を開設し「子どもの足の発達と靴選び」についての国内初の専門ページを開設。子ども靴に特化した専門店フラウの経営と子どもの足の形態調査を行い、研究および学術発表を続けている。

2015年保健学修士号を取得。監修書籍に「3歳までの子育ての教科書」(アスコム)の単元「子どもの健やかな成長は、靴選びから始まります！」、原著論文に「幼稚園児におけるアーチ形成過程の時系列的検討」、主なテレビ出演に毎日テレビ放送の「ちんぷいぷい」、関西テレビの「痛快！エブリディ」などがある。2万5000人以上の子どもの足に対するシューフィッティング実績を持つシューアドバイザーとして、子ども靴業界のパイオニアであり、整形靴技術者養成校や足育団体等の実技指導も行っている。



ベール ルッツ
●ベール ルッツ 整形外科靴マイスター

株式会社フィートバック CEO。

ドイツ、オーバーハウゼン市出身。1993年ドイツ・ハノーファーで整形外科靴マイスターの資格を習得。

本場ドイツ国内においても整形外科靴マイスターは4000人強しかいない希少職業の中で30年以上のキャリアを持つ。1999年来日後、数社の日本企業にて、技術指導にあたる。



2014年(株)フィートバックを設立。靴・インソール製作だけでなく、足病変全般に渡る特別講義、靴店コンサルティング、整形外科病院、皮膚科診療所などで医師と連携を図り、技術提携を行っている。2015年第29回日本靴医学会学術集会において、シンポジウム「マイスターから見た日本の靴医学」のシンポジストとして登壇。糖尿病認定看護師や義肢装具士等、医療資格者への技術指導だけでなく、小児の足に対しても、足と歩行の分析と靴・インソールの適合のための技術指導を行える数少ない整形外科靴マイスターである。

よしむら まゆみ
●吉村 真由美 靴教育学者

早稲田大学人間総合研究センター 招聘研究員
東京都出身。1993年大妻女子大学家政学研究科被服環境学専攻、博士号取得。

1994年金城学院大学短期大学専任講師、2006年金城学院大学生生活環境学部教授を経て、2012年より現職。正しい靴行動の元となる「日本人のためのシューエデュケーション®」を考案・提唱し、大学での講義、保育・学校現場での介入指導等を通じて、「シューエデュケーター®」＝靴行動教育者の育成を進めている靴教育の第一人者。日本靴医学会評議員および同学会小児の足と靴を考える委員会委員、日本人間工学会代議員および同学会子ども人間工学委員会委員などを歴任。

主な著書に「知っておきたいヨーロッパ流 子どもの足と靴の知識」(ヴィーラント・キンツ著／吉村真由美監訳 ななみ書房) 主要論文に「子どものための靴教育・シューエデュケーション®」などがある。

科学研究費助成事業(日本学術振興会)にて、2003～2004年度「子供靴選択時の意識と機能性に関する認識—日本とドイツの消費者および教育者の比較—」、2006～2008年度「子どもの足サイズ計測の必要性—学校保健統計調査で靴によって起こるトラブルを防ぐ—」、2009～2011年度「子どもの足の健康を目指した「靴教育」の実践—靴によって起こるトラブルを防ぐ—」の3つの研究を遂行。日本初の靴教育理論を構築し、その成果をもとに2015年指導者のためのシューエデュケーション®講座を開講。2015年12月、国内8割の小学校で採用されている保健指導教材セット「小学保健ニュース(児童向け)」、「ほけん通信(保護者向け)」、「解説書(養護教諭向け)」を監修・執筆し、靴行動教育を小学校で展開(少年写真新聞社)。保育・学校現場を介した靴教育の国内定着に向け、全国の自治体や団体・教育者と連携し、「どう教え、どう変えるのか」をテーマに精力的に取り組みを進めている。



べーれ みさお
●べーレ 操 日独通訳者

(株)フィートバック
15歳で、東西ドイツ統一前の渡独直後、整形外科靴マイスターに脚長差調整の足底板を処方された筋金入りの足と靴のスペシャリスト通訳者。

ドイツより帰国後、1995年筑波大学卒業、日系企業フランクフルト支店勤務を経て、フリーランス通訳者として活躍。2015年第29回日本靴医学会学術集会において、シンポジウム「マイスターから見た日本の靴医学」の日独通訳で登壇。整形外科靴マイスター・べーレルツの妻にして、整形外科領域全般からドイツ医療制度、車関係、菓子、取材コーディネーターまで幅広くこなす。

